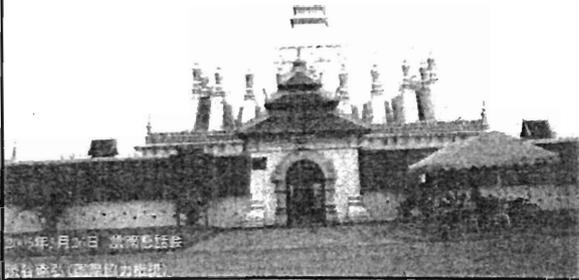


ラオスの森林と人々の暮らし

—北部地域を中心として—

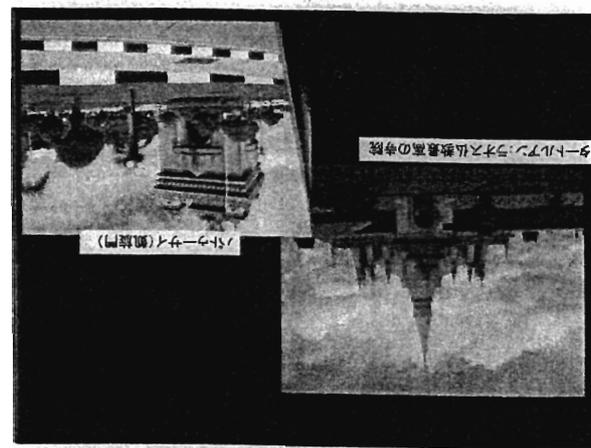


本日の報告内容

- (1)ラオスの概要
- (2)ラオスの森林・焼畑・人々の暮らし
- (3)JICAによる協力

(1)ラオスの概要



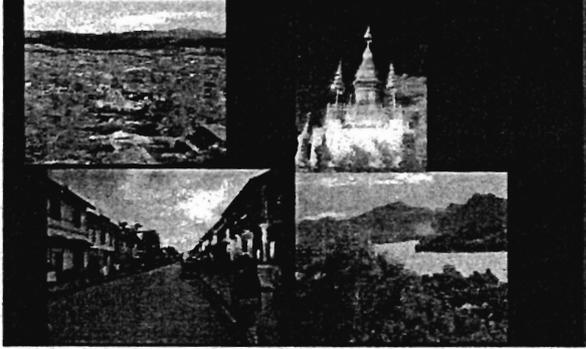


ラオス人民民主共和国

面積: 約23万7000km²
 人口: 約530万人
 平均気温: 約26度
 国土: 3か山岳部、高原部
 宗教: 仏教、精霊信仰等
 主要産業: 農業など

1949年: フランスより独立
 1975年: 社会主義政権樹立
 1986年: 経済開放路線

古都アンブラパンの様子



ラオスの料理

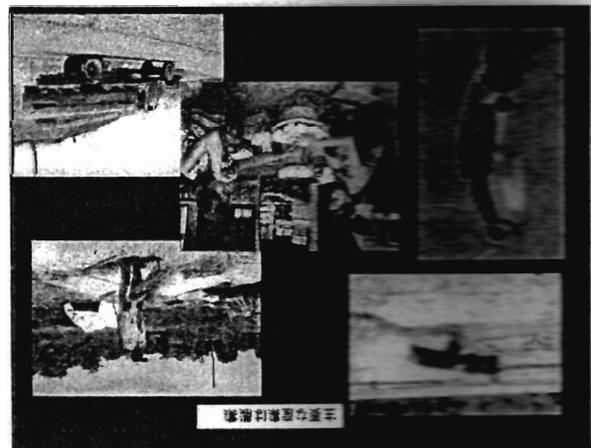


子供たち





(2) 木材の森林・焼畑・人々の暮らし



ラオスの土地利用の概要

土地利用形態	全国		地域別土地利用割合 (%)		
	面積 (ha)	割合 (%)	北部	中部	南部
現状森林	11,164	47.1	36.3	51.7	56.2
潜在森林	8,949	37.8	56.2	27.7	21.4
その他樹木	1,444	6.1	2.7	8.2	8.9
農耕地	850	3.6	0.6	4.1	7.5
その他	1,209	5.4	4.5	8.1	3.9
合計	23,600	100.0	100.0	100.0	100.0

データ出典: Forest Atlas and Land Use in Laos (2004) FAO, 2004. 農林省 (2011). 「ラオスの農業と森林資源」(2010年) 45-46頁

注: 潜在森林は、現時点では森林として管理されていないが、適切な管理の下で森林として回復可能なものである。

稲作付け農家の地域的特長

農家数: 11,000戸

	総農家数	稲作付け農家数			
		計	水田のみ	焼畑のみ	水田および焼畑
北部	258	228 (88%)	54 (24%)	124 (54%)	49 (21%)
中部	198	177 (89%)	131 (74%)	29 (16%)	17 (10%)
南部	231	207 (90%)	168 (80%)	33 (16%)	8 (4%)
全国	668	614 (92%)	354 (58%)	186 (30%)	74 (12%)

データ出典: 農林省 (2011). 「ラオスの農業と森林資源」(2010年) 45頁

ラオス政府による焼畑対策

土地・森林分配事業(1996年導入)

事業内容: 主に個人への土地分配と村落への森林分配(その前提としての村落界の確定作業含む)で構成

(1)個人への土地分配: 開墾適地の仮の使用権を契約に基づき農民に分配し、3年間契約通りの耕作を行った場合に農民が長期使用権を請求できる制度

一商業生産物生産の促進、使用地の確定による土地税の徴収

(2)村落への森林分配: 村落用地、農業用地以外の土地・森林を、水源保全林、利用林、保護林に区分するとともに区分毎の利用規則を作成し、適切な森林の利用・保全・回復を図ろうとするもの

(3)JICAによる協力

ラオス国森林管理・住民支援プロジェクト Forest Management and Community Support Project in Lao PDR

目的

村民の自主的な活動により、持続的な森林の利用及び保全がなされ、また焼畑耕作に過度に依存しないための生産活動が活発になることを目的とする。

戦略

- 1) 持続的な森林・土地資源の利用と管理技術への支援
- 2) 焼畑に代わる農業生産活動及び生計向上への支援
- 3) 上記1及び2をサポートする行政の普及活動の改善と推進への支援

プロジェクト活動の対象県

北部6県(ルアンプラバン、ボケオ、ルアンナムター、サヤブリ、ホアパン、ヴィエンチャン)

協力期間

2004年2月10日～2009年2月9日(5年間)

実施機関

ラオス側: 農林省農林業普及局(NAFES)、日本側: 国際協力機構(JICA)

専門家派遣(6名)

- ①チーフアドバイザー、②業務調整/普及促進、③村落振興、④研修・普及、⑤参加型資源管理、⑥(農村振興プログラム調整)

プロジェクト事務所

ルアンプラバン事務所(農林省事務所構内:TEL:071-254378)

ヴィエンチャン業務調整事務所(農林省農林業普及局構内:TEL:021-740256)

